

第3節 墨田サテライトキャンパス

第1項 千葉大学墨田サテライトキャンパスの開設

千葉大学墨田サテライトキャンパスは、2021（令和3）年4月、東京都墨田区に開設した本学の第5のキャンパスである。墨田区所有の土地と建物を利用し、学生定員を置かず、他の主要な4つのキャンパス（西千葉・亥鼻・松戸・柏の葉）に所属する教員・学生が教育研究を実践するサテライトキャンパスとの位置づけである。長らく東京都23区の中で唯一大学が開設されてこなかった墨田区において、隣接する情報経営イノベーション専門職大学（略称：iU）とともに、区が掲げる「大学のあるまちづくり」の推進拠点となることが期待されている。

同キャンパス開設の契機は、2017（平成29）年に千葉大学と墨田区が包括的連携協定を締結したことに遡る。以来、公的資源を活かし再生する「まちと一体となったキャンパスをつくる」を基本構想に掲げ、1986（昭和61）年竣工の旧すみだ中小企業センターの建物を墨田区が大規模改修し、そこに本学が賃借入居する方式を取り、地上5階地下1階建て延床面積9,447.77㎡のキャンパスを開設するに至った。賃借入居によるこれだけの規模のキャンパスの開設も千葉大学としては初の事例である。

第2項 「生活の全てをシミュレート」するキャンパス

墨田サテライトキャンパスにおける教育研究活動ならびに運営を担うのは、同キャンパスの開設と同時に2021（令和3）年4月に新たに組織した「デザイン・リサーチ・インスティテュート（略称：dri）」である。driは、100年の歴史を誇る千葉大学のデザイン教育研究を、産学官連携によるデザイン実践に基づき、従来の工学全般から文理横断へと分野を超えて発展させることを目的とした教育研究組織である。同年3月まで大学院工学研究院のデザインコースを担当していた教員を専任として、また、建築学、イメージング科学、都市工学、ランドスケープ学、予防医学の各領域を担当する教員を兼務として組織したもので、このdriの教員が中心となり、墨田サテライトキャンパス全体を実証実験空間として、「生活の全てをシミュレート」するデザイン実践をさまざまに行っている。

なお、driでは、最新のデザイン領域を取り込みつつ墨田サテライトキャンパスにおけるデザイン教育研究を高度化するために、東京を基盤として第一線で活躍するデザイナーを雇用できるようクロスアポイントメント制度による教員の雇用を始めており、2022（令和4）年においては3名のデザイナーを特任教員として迎えている。

第3項 共創を促進するためのキャンパス設計

(1) 墨田サテライトキャンパスの内部空間

墨田サテライトキャンパスを構成する建物は1棟のみであるが、リノベーションに際しては、旧すみだ中小企業センターの建物の躯体を最大限有効活用するとともに、可能な限り間仕切りを排除し大空間を活かした開放的でフレキシブルな内部空間を構成することを目指した。3階・4階・5階をデザイン教育研究を推進するための「大学エリア」、1階・2階と地下1階の一部を「地域開放エリア」とし、併せて最新のデジタル造形機器を多数導入したものづくりの場であるモデルショップ等を地域連携・産学連携ゾーンに位置づけている。

大学エリアには、ワークショップやPBL型学習に適したコモンスタジオ（5階）、旧すみだ中小企業センター時代には体育館として利用されていた大空間をそのまま活かしたイノベーション・アトリエ（4階）、ならびに、ラーニング・スペース（3階）等を配置している。なお、コモンスタジオにおける縦型の移動式什器は、同スタジオの空間を最大限活かすべく地元企業を含めた企業との共同研究によってデザインしたものである。また、企業との共同研究を推進するためのインタラクティブ・スタジオ（4階）も同エリアに設置しており、すでに数社が入居し共同研究を推進している。

開設2年を間近に控えた2023（令和5）年1月には、3階に千葉大学医学部附属病院の附属施設である「墨田漢方研究所」を開設している。同研究所の開設も新たな和漢診療のあり方を見出す試みの1つと位置づけ、旧来の診療の概念を覆すべく「未来の診療所をシミュレート」した空間デザインを提案しており実施に至っている。

地域開放エリアは、教職員と学生が区民とともに活動できる場であり、シミュレーションスペース（2階）、地域連携スペース（1階）、ギャラリー（地階）等を配置している。この地域開放エリアの運営は、墨田区・千葉大学・iUならびに近隣の関係団体で構成する公民学連携プラットフォーム「アーバンデザインセンターすみだ」（UDCすみだ）が担っており、まさに、墨田サテライトキャンパスを「まちに開かれ

たキャンパス」とするべく運用を行っている。

(2) キャンパスコモンの形成

墨田サテライトキャンパスは、区立公園であるあずま百樹園に隣接し、かつ、iUとの間に位置する外部空間であるキャンパスコモン形成の一翼を担っている。旧すみだ中小企業センターの改修に際しては、このキャンパスコモンとの一体化を最重要整備方針の1つとし、従来は建物の内部空間であった1階の一部を外部貫通通路として地域に開放し、学内外の人びとの交流を促すよう設計している。また、キャンパスコモンは同キャンパス開設より約2年を経た2023（令和5）年3月に整備が完了し、都市公園の一角に位置するキャンパスとして区民らに親しまれる存在となっている。なお、同キャンパスの周辺は、教育研究のフィールドとして活用しつつキャンパス景観の整備を行うことを計画している。

第4項 共創拠点としての発展に向けて

上述してきたように、墨田サテライトキャンパスは、100年の歴史を有する千葉大学のデザイン領域を主軸として同領域をさらに展開する試みと連動させつつ、まさに、地域リノベーションの実証拠点となるべく計画・運用を図っている。

しかしながら、その取り組みは、ようやく緒に就いたばかりとも言える。今後にあつては、墨田区においては、行政機関をはじめ当該地域の産業・生活者等のより多くのステークホルダーを巻き込み、また、学内においてはさらに多様な領域を取り込み、両者の特色や強みを活かしつつ、地域の資源活用・課題解決を行いながら自律的・持続的な地域社会の創生を、まさに机上に止まることなく実践していくことが求められる。そうすることによってこそ、墨田サテライトキャンパスは、本学内においても、また、学外との共創拠点としてより盤石に発展していくものと思われる。